

## 越後 飯士山

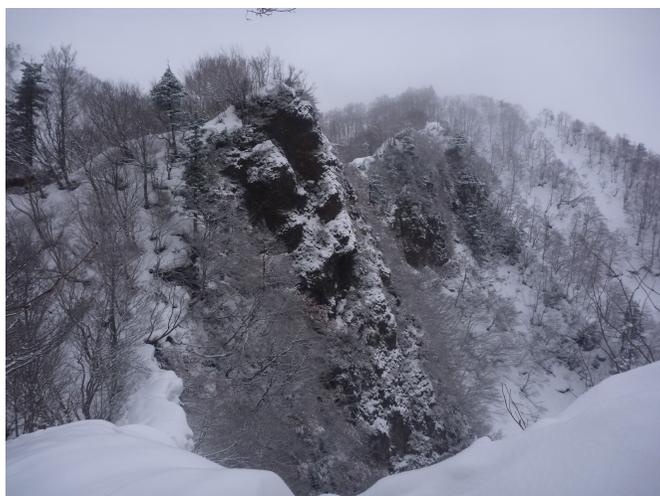
松本

【日時】 2014年3月1日(土)～2日(日)

【メンバー】 L松本、佐藤(里)

### 3/1 (土) 曇りときどき晴れ、午後小雪

国道17号を六日町から湯沢に向かうと正面にピンと先の尖った山が見える。白く雪をかぶるといっそう小生意気な感じな山。それが飯士山だ。その飯士山にさと리카さんと向かった。今回は車ではなく、上越新幹線利用というセレブな山行である。



駅前からトコトコ登山口に向かう。4年前の秋に登ったことがあるので、その記憶を頼りにいくと、神弁橋に到着。ここで準備をする。今回は鋸尾根から飯士山に登り、北に進路をとり、舞子スキー場へ下る予定である。橋は雪が乗っていて、登山道がある沢は雪が解け、大きく口を開けている。それを避けつつ沢筋へ入っていく。左岸から適当な支尾根に取り付き、上へ上へと稜線めがけて登っていく。さらに雑木林の雪尾根を840ピークへ。ときどき晴れ間が差し、後ろには越後湯沢周辺が一望できるようになる。ヒーヒーいいながら一生懸命登

っている山が、越後湯沢駅前の小さな山であることが、なんともおかし。

840ピークを過ぎると、いよいよ鋸尾根だ。地形図でも尾根は細く、途中岩マークもある。南側に張り出す雪庇はここ数日の高い気温でだいぶ落ちている。藪交じりの細かい稜線はアップダウンを繰り返して続く。途中、小さな岩の上にもっこりと卵型に雪が残り、これをどうするか迷う。両側はスッパリと切れ落ちている。雪がしっかりあれば問題はないが、このもっこりが視覚的にも不安定でイヤな感じだ。一度荷物を下ろし、ロープを出して、さと리카さんが偵察に行く。途中、支点を取り、もっこり雪に道をつけてくれる。もっこり雪の先は小キレットでちょっと怖い。そこを越えた先も藪と薄く雪のついた岩壁が立ち上がる。ようやく登りきると、テント予定地の950ピークに到着。テントを張り終える頃、雪がちらついてきた。

### 3/2 (日) 曇りときどき、小雪

朝から急な下り出しで始まる。その後も細い尾根と雪庇に緊張しながらJPへ。天気あまりよくないので、予定の北への進路はあきらめ南の立柄山からの下山に変更する。荷物をデポし、飯士山山頂を往復する。しかし飯士山直下は岩原スキー場。山は懐かしい80年代アメリカンミュージックがががが流れていた。ビルボード研究会に所属していたSさんなら、イントロクイズで全正解&優勝だったことだろう。そんな俗世界一色の中、ふたりは急な雪壁を山頂へ。ソフトクリームのような雪庇の先端まではいかず、少し手前で登頂とし、下山。JPにもどり、南東の尾根に入り、立柄山手前から尾根を分岐し、立柄橋へ下山した。



← 鋸尾根を飯士山山頂  
付近から望む。ポコの  
上に乗った雪と藪がハ  
リネズミに見えませ  
んか？

→ 急な山頂直下の雪壁と 80 年代  
アメリカンポップが流れる岩原  
スキー場。緊張とゆるい感じが  
交差する不思議な空間



【行程】 3/1 (土) 神弁橋 (8:30) ~ 840m (11:00) ~ 950m C1 (15:00)  
3/2 (日) C1 (7:00) ~ JP (8:00) ~ 飯士山 (9:00) ~ 立柄橋 (12:40)

【地形図】 越後湯沢